

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671500357		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム 春日苑		
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字四番越11番5		
自己評価作成日	平成23年7月25日	評価結果市町村受理日	平成21年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年9月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は、旧吉野川のほとりにある木造の建物で、季節感を大切に、自宅にいるかのような感覚で生活をしていただいている。利用者の心身状態に配慮したうえで、利用者全員が外出できるように機会を設けており、社会との繋がりを大切に支援している。季節の行事を大切に、昔を振り返って楽しめるようにしている。また、夏季には花火大会等の夜間行事も行っている。事業所内には季節感を取り入れた掲示物を展示し、季節を感じるができるようにしている。また、利用者と職員は、和気藹々とした雰囲気の中様々な作品を作成し掲示している。敷地内に庭園や畑があり、自由に入出入りできるようになっている。レクリエーションや日光浴等を楽しめるよう、庭園にテーブルとベンチを設置している。また、畑では、家庭菜園に取り組み、利用者と職員はともに季節の花や野菜を育てて収穫し、玄関に飾ったり食材に活用したりしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の周辺には、役場や保健センター、老人福祉センター、社会福祉協議会、医療機関、商店等の施設がある。事業所の目前には旧吉野川が流れるなど、自然の豊かな環境に位置している。事業所の建材に郷土の杉や檜を使用している。また、利用者が安心して生活ができるようバリアフリーを施している。居室は広くベランダもあり、南向きの日当たりの良い環境となっている。利用者は、庭に自由に入出入りでき、菜園や花畑の手入れを楽しんでいる。浴室を増設し、利用者の希望に応じた時間帯に楽しく入浴できるよう支援している。広く明るい浴場には大きな特殊浴槽を設置し、ときには仲の良い利用者同志がともに湯船に入ることもある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で生活していくうえでどのようなことが望ましいか、全職員で話しあって事業所独自の理念を作成している。家族との関わりを中心として、広く地域と関われるよう職員間で話しあっている。	全職員で作成した理念を掲げ、日ごろの取り組みに反映している。月1回のミーティング時に、全職員で理念について話しあい、具体的なケアの方法等に関する意見の統一を図っている。また、ユニットごとにも理念について話しあ得機会を設けており、職員一人ひとりが認識を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事やイベント等に積極的に参加している。また、長寿会に加入し、運動会やその他の催しごとに参加している。また、事業所の避難訓練にも参加していたり、災害時の協力体制を構築している。	自治会や町老人クラブに加入している。地域のお祭りや清掃、運動会、町の行事、イベント等に積極的に参加し、地域との交流を図っている。また、地域住民に事業所の避難訓練に参加していただくなどして協力体制を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にとって事業所が認知症に関する相談窓口となれるように、行事や交流会を通じて呼びかけている。また、気軽に立ち寄っていただける雰囲気づくりにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。長寿会長や民生委員、町役場職員等の参加があり、地域の情報や事業所の取り組み等について意見をいただいている。参加が困難な場合は、話しあった内容を文書で報告している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の代表や家族、地域住民、町担当職員、法人代表者、職員等が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいて、意見交換や報告を行っている。また、日ごろから、運営等について相談を行うなど、町担当者と密に連携を図っている。	月1回、町担当者に報告書を持参し、相談や助言を得ている。運営推進会議にも参加していただいており、密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催している。十分な見守りを行うことで拘束をしないケアに努めている。医師の指示により、やむを得ず拘束を行う場合は、家族の同意を得たうえで定期的に会議を開催し、早期解除に努めている。	身体拘束の弊害を認識し、勉強会を開催している。全職員で見守りケアを徹底するよう努め、日中は玄関を開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから、虐待の防止を徹底し見過ごすことのないよう利用者の様子を観察している。職場内研修を行って、全職員が共通意識をもって虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者はいない。当該制度等に関する職員研修等の機会が少なく、十分に学習し理解する機会の確保には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行って利用者や家族に理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し、誰でも要望を出せるようにしている。また、面会時には、家族と積極的に関わりをもつように努めている。話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。	家族の来訪時、担当者が積極的に関わりを持つよう心がけている。家族に利用者の健康状態や生活状況を伝えている。事業所発行の“春日便り”と利用者の近況報告等を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、つねに職員とコミュニケーションを図っている。職員から意見や提案があった場合には、迅速に対応し運営面に反映させるよう努めている。	代表者は、日ごろから事業所を訪問して職員とコミュニケーションを図るよう努めている。職員から出された意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場に足を運んで職員とコミュニケーションを図っている。相談や提案をしやすい雰囲気づくりに努めている。代表者は、つねに職員の様子に気を配り、その思いを理解するとともに、向上心を持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報は、代表者から全職員に通知され、希望者が受講できる仕組みを構築している。また、定期的に事業所内で研修を行っている。新人職員を対象とした研修や問題解決のための研修は随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の一環として、他事業所の訪問を受け入れたり、他事業所への見学実習等を行っている。他事業所の良い点を参考にすることで、より質の高いサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりと接する時間をなるべく多く設け、訴えや行動から利用者の本当の思いを理解するよう努めている。時間をかけ本人のペースにあわせて信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える悩みや思いをありのままに受け止めて共感することで信頼関係を構築し、同じ思いをもって支援に望めるよう取り組んでいる。また、知識や経験に基づき様々な提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思い込みや決め込みをせず、本人と家族の思いや要望を理解することに努め、あらゆる角度から対応していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される側の者として捉えず、ともに生活する者としてつねに寄り添って相互に助けあい、支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるチームの一員として、積極的に家族とコミュニケーションを図り、協力しあえる関係の構築に向け取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで続けてきたことをひとつでも多く継続していただけるように、本人の希望も踏まえて支援している。	本人のこれまでの経験や習慣が途切れることのないよう支援している。墓参りや晩酌のワインの提供、馴染みの場所への外出、庭の菜園作業等を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を理解し尊重するように努めている。また、利用者同士の共同作業等を通じて、支えあうことを感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の有無にかかわらず、本人や家族が安心して生活できるための支援をなるべく行っている。医療機関や他事業所に移る場合は適切な情報の提供に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを理解し応じられるように家族を含めたチーム全体で意見を出しあって検討している。	職員は、利用者の思いや意向等の把握に努めている。家族にミーティングへの参加をお願いするなどして、本人本位の視点に立った意見交換に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりのなかで、これまでの暮らし方や習慣を把握している。家族からも情報を得て、本人の馴染みの生活に少しでも近づけるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切に支援している。ともに生活するなかで本人の持っている力やできることに注目し、生きがいや役割を感じていただき、その方らしく暮らしてもらえるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、本人や家族から要望や意見を聞いている。また、本人と接するなかで思いを把握し反映している。定期的に会議を開催し、現状に応じた介護計画になっているか確認している。	担当者は、本人との会話のなかからさり気なく思いや意向を把握して受け止めるよう取り組んでいる。本人の思いなどは全職員で共有し、家族の移行も踏まえて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも記録に残し、状態の変化を全職員で共有している。日誌の確認は、日々の業務開始前に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内での日ごとの生活支援だけでなく、本人や家族の要望に対しきめ細かく対応できるよう柔軟な姿勢で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の対応等、必要な時に援助をしていただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は、引き続き受診の支援を行っている。家族と協力し受診の付きそいを行っている。	本人や家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。家族と協力し、職員も付きそい支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医と連携し、全職員で利用者の健康管理を行っている。夜間の変化時等にもかかりつけ医に連絡をとれる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを最小限に抑えられるよう、医師と密に連絡を図って、早期退院に向け支援している。医療機関への適切な情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と十分に話しあい、重度化した場合の対応について意識の統一を図っている。	重度化した場合に備えて家族やかかりつけ医、担当者等と十分に話しあいを重ね、安心して最後が迎えられるようチームで支援する体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や夜間の急変時のマニュアルを作成し、円滑な対応を行うための対策を行っている。緊急連絡網を整備し、職員間の連絡が取りやすい体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時に備え様々な状況を想定した避難訓練を行っている。地域の方々にも協力を呼びかけている。	年2回、避難訓練を実施している。消防署や地域住民の協力を得て実施している。居室の入り口には、緊急時に備え防災頭巾を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、誇りやプライドに十分配慮した言葉かけや対応を行っている。	利用者一人ひとりの尊厳を大切に支援している。プライバシーを傷つけることのないよう配慮し、言葉かけに留意して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体の生活を基本とし、利用者自身の意思や自己決定を尊重している。また、希望等の表出が困難な利用者については、個人の力にあわせて支援し、なるべく意思を汲みとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決めた日課や都合を押しつけないように留意している。1日の生活の流れをつくる支援をしつつ、そのなかで利用者一人ひとりのペースを守っていただいで自由に過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ行ったり、出張美容を利用するなどして、おしゃれへの関心をもってもらえるよう支援している。好みの色やデザインの洋服を着るなど、その人らしいおしゃれをしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に旬の食材を取り入れ季節感を大切にしている。また、行事やイベントに応じた食事を提供するようにしている。食事の準備や配膳等は利用者とともにやっている。	旬の食材を念頭に献立を考え、利用者と職員がともに買物に出かけて食事づくりをしている。また、利用者の力量に応じて配膳や後片づけ等の役割を担ってもらい、同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気なか食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握することにより必要に応じた支援をしている。また、嚥下体操を行い、咀嚼や嚥下機能が衰えないようにしている。咀嚼や嚥下が困難な方にはミキサー食やとろみ剤を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの力に応じて声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。歯磨きが困難な利用者は、スポンジやガーゼを使用して口腔ケアを行っている。洗浄剤を利用し、義歯の消毒や殺菌を行って清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導を行って本人の不快感や混乱を無くすよう努めている。おむつ使用者には、不快感や皮膚疾患の原因とならないよう留意している。	排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は、利用者にさり気なく声をかけて誘導している。オムツやリハビリパンツが必要な利用者にも、トイレでの排泄を可能にするため、つねに利用者の様子を見て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身への影響を十分に理解し予防に努めている。下剤を服用されている方は、特に排泄の有無や形状、量等を詳しく記録し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を行っている。利用者の希望に応じたタイミングで入浴していただけるよう支援している。	浴室が2つあるため、利用者の希望に応じて入浴してもらっている。仲の良い利用者同士がともに入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさや室温等の環境、就寝時間等に留意し、利用者一人ひとりが安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や薬局からの薬剤情報をもとに管理を行っている。薬は食事の度に1回分ずつ手渡し、利用者全員の服薬を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの性格や特性を活かして、自分らしい活動を行えるよう様々な選択肢を提供し、本人の気持ちに配慮したうえで家事活動等を行っていただいている。また、趣味等も継続して行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、気分転換や地域交流も兼ねて散歩や買い物に出かけている。また、外出の日を設けてドライブに行ったり、利用者の行きたい所へ個別に出かけられる機会をつくっている。	利用者の希望によりお寺参りやドライブ、買い物等の個別の外出支援を行っている。敷地内の広い中庭では、利用者が野菜畑や花畑の手入れをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理されている方には否定せず、本人の意思を尊重し安全に管理できるようさりげない支援に努めている。事業所で管理する場合は、家族に出納帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけられるようにしている。電話機の使用が困難な場合には必要な支援を行っている。手紙を出す支援も同様に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを活かした空間づくりに努めている。利用者が分かりやすいよう簡潔な表示を行っている。季節ごとに掲示物を変えて楽しんでいただき、季節の移り変わりを感じてもらえるように工夫している。	杉・檜のぬくもりや香りを活かした共用空間は広くて明るく、ゆったりとした雰囲気が感じられる。季節の花を生け、利用者の五感を刺激している。また、食堂や個室からベランダへ自由に入出入りすることができ、安全で開放感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにあるベンチで涼んだり、談話室のソファで数人が集まってくつろげるようになっている。静かに過ごすための場所や気のあった利用者同士が誘いあってゆっくりと過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を使用していただき、落ち着いて過ごせるよう配慮している。また、家具の配置等を工夫し、安全面にも留意している。	居室は広くて日当たりが良い。利用者は、馴染みの品物を持ち込んでおり、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を招くようなものはなるべく排除し、利用者が自分で理解し行動できるよう工夫している。物の選択や配置については安全を最優先にしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、事業所独自の理念を作成している。毎月のミーティング時に、具体的なケアについて話しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の運動会やお祭り、長寿会の運動会等に参加している。また、地域の文化祭では、利用者の作品を出展するなどして、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にゴミ拾いを行うなど、地域の役に立って社会参加できるよう取り組んでいる。地域の方々に理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席者から、地域の行事に関する情報をいただいたり、事業所の取り組みについて報告を行っている。また、出された要望や意見等はサービスの質の向上に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者に相談をしたり、意見をいただいたりして情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。ケアを振り返り、点検も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから、虐待の防止を徹底し見過ごすことのないよう利用者の様子を観察している。職場内研修を行って、全職員が共通意識をもって虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性について理解はしているが、現在必要な方がいないため活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っている。特に、起こりうるリスクや重度化、看取り等に関する対応方針等について同意を得るようにしている。料金の値上げ等を行う場合は、事前説明を忘れないように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や行動等で意思を把握するように努めている。家族の来訪時には、話をする機会を設けて意見を聞いている。意見箱を設置しており、いつでも記入していただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月1回のミーティング、個別面談等で意見を聞き、迅速に対応・反映できるよう努めている。日ごろから、コミュニケーションを図るよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に現場に来て利用者と過ごしたり、個別に職員の業務内容や悩みを把握し、向上心を持てるよう働きかけている。休憩室を確保するなどして、職員の疲労やストレスにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や段階に応じ、外部研修の受講ができる仕組みを構築している。新人職員に対しマンツーマンで指導するなど、ていねいな対応を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員を研修として受入れている。また、他事業所の運営推進会議や研修等に参加し、同業者と交流する機会を設けて勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、本人の現況や今後の希望等を聞く機会を設け、なるべく受け入れられるように配慮し、信頼関係の構築に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や困りごとなどについて事前に話しあっている。気持ちを受け止めて関係づくりを行い、より詳細な相談に応じられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いや状況等を確認し、できることについては早い対応を行い、困難と思われることについては地域資源や他サービスの利用を含めて検討するなど、要求に応じた支援ができるよう柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろの生活のなかで、ともに調理や清掃、家事ね手芸ね菜園等の軽作業を行って信頼関係を構築し、支えあう場面づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告の手紙や来訪時の職員、本人も含めた三者での話しあいなどを行い、両者の関係を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや結婚式等の家庭の行事、地域のお祭りなどのイベントに参加できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室を設け会話できるようにしている。また、共同で楽しめるパズルなどの娯楽を通じて関われるように支援している。食事の用意も、段階にあわせて役割を担っていただき、助けあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移られた先に、本人の状況や習慣、好み、ケアの状態等を報告し、本人や家族が安心して暮らせるよう支援している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の希望を把握し、なるべく意向にそえるよう努めている。困難な場合は、本人本位に検討し、利用者一人ひとりの趣味や生活リズムを大切にしたい支援を可能な限り行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、家族や地域の方からライフスタイルや生活歴等の情報をいただいてケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしのリズムや行動、顔の表情等に配慮し、状態に応じた支援に努めている。介護記録や職員間の話し合いにより、事業所全体で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の職員ミーティングや月1回の全体ミーティング等の際に、本人や家族の希望、日ごりの様子等をもとに作成し、変化にはすぐに対応できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアに関するあり方などを記録し、全職員が勤務開始前に確認し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・状態に応じ、協力医の意見や協力医療機関、他事業所と連携を図って柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて消防署や警察等に働きかけ、利用者の安否の見守り等をお願いしている。また、民生委員やボランティアの方と協力しあって支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、本人や家族等の意見を踏まえ、以前からのかかりつけ医と事業所の関係を構築して受診の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、日ごろの利用者の健康管理を行って状態を把握したうえで変化に迅速に対応できる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の了承を得たうえで、医療機関へ情報提供を行っている。ケアに関する話し合いを十分に行い、入院による本人のダメージを防ぐことや早期退院に向けたアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を作成している。今後、必要に応じてかかりつけ医の協力のもと支援する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や夜間の急変時のマニュアルを作成し、円滑な対応を行うための対策を行っている。緊急連絡網を整備し、職員間の連絡が取りやすい体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施し、災害時の避難方法を身につけるよう取り組んでいる。また、地域や近隣の方にも災害時の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、個人の尊厳を守ることを念頭においてケアを行っている。目立ちすぎないように、さりげない言葉かけや対応を行うよう注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力にあわせた声かけや、意図的に希望等を引き出す取り組みを行っている。意志表示の困難な利用者に対しては、表情等から読みとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決めた日課や都合を押しつけないように留意している。1日の生活の流れをつくる支援をしつつ、そのなかで利用者一人ひとりのペースを守っていただいて自由に過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気持ちや生活習慣にそった支援をしている。利用者の希望する美容院や出張美容、ファッションセンターの利用、化粧品選びなどを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に応じ、ともに食事の準備を行っている。職員も、同じ食卓を囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの力や希望に応じて、職員とともに片づけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立をたて、利用者一人ひとりの摂取量を把握している。体調にあわせて代用食も用意している。利用者の好みを把握しメニューに取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には洗面所で口腔ケアを行っていただいている。自分で口腔ケアを行うことが困難な方には、ガーゼ等を使用して口腔ケアを行っている。職員による点検を行い、夜間は消毒剤を用いて義歯を消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		トイレでの排泄を基本としている。利用者一人ひとりのサインを全職員が把握し、さりげない支援を心がけている。身体機能に応じた介助や紙パンツ、パット等の使用を検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		排泄パターンを記録し、食事メニューや水分摂取量等に注意している。また、便秘の解消に有効な食材の利用にも努めている。レクリエーションの時間に体操を取り入れ、身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		本人の希望や体調に応じた入浴の支援を行っている。全職員が、羞恥心等を理解したうえで入浴の支援を行っている。仲の良い利用者同士が入浴を楽しまれている日もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		1日の生活リズムを整えたり、日中の活動に配慮している。場合によっては冷却剤を使用したり、医師に相談したうえで睡眠剤を利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		処方や効能、副作用等の説明書をファイルに保管し、全職員が分かるようにしている。毎回、服薬確認を行っている。心身状態の変化にも配慮し、医師と連絡を取りあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		利用者一人ひとりに応じた役割を担っていたり、本人の希望を聞きながら続けていくと、生き生きとした表情をされている。職員は、お礼の言葉を忘れないよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		行きたい場所別にグループをつくって時々外出している。買い物や地域へ散歩等に出かけたり、お祭りや運動会等にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で買い物時等の支払いができるよう支援している。自分で金銭の管理ができない場合は、家族と相談したうえで管理している。その場合には、出納帳を利用し支出の内容を家族に明らかにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、事業所の電話を使用してもらっている。自分で電話をかけることが困難な人には職員が支援している。手紙についても個人的なものや年賀状等、そのつどやりとりができるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間、玄関に、利用者の作品や季節のもの、行事に関するものなどを展示している。居心地の良い環境のなかで、利用者同士が会話を楽しめるよう工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにあるベンチで涼んだり、談話室のソファで数人が集まってくつろげるようになっている。静かに過ごすための場所や気のあった利用者同士が誘いあってゆっくりと過ごせる場所となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族、職員間で協力しあって、居心地の良い住まいづくりに努めている。利用者や家族と相談を重ね、安全で居心地の良い空間づくりに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。木材を使用し、広い廊下には手すりを設置している。居室の出入口も歩行器や車いすが十分に通れる広さを確保している。居室での生活もプライバシーが守られるように留意している。			